

留学報告書 ～日本から見る中国、中国で見る中国～

華東師範大学
国際文化学部生（中期）

私は中国留学で、中国語を身に付けるのはもちろん、人脈の輪を広げられました。また、中国留学をして中国人と実際に触れあうことで中国人のイメージがかなり変わりました。

私が留学したのは、中国・上海にある華東師範大学です。



上海中心部に近く、空港やターミナル駅への交通も便利で、最高の立地です。

華東師範大学は国際交流を重視しており「華東師範大学の教職員数は4,000人、在校生は26,000人で、約半数が大学院生である。また、外国人留学生は3,600人である。華東師範大学には関行、中山北路の両キャンパスがあり、総敷地面積は207万平方メートルである。」（中国の大学データベース

<https://daxue.liuxue998.com/170401%20ksihan%20ki%20.html> 引用 2020/03/26)

東京ドーム約四十四個分の広大な敷地内には、食堂が三つ、大きなグラウンドが二つ、コンビニ、売店、ATM、美容室、図書館、カフェなど様々な施設がそろっており、大学の周りには大きなショッピングモールが二つに、銀行や郵便局もあるので非常に生活しやすかったです。

バス停や地下鉄駅も近くにあり、中国は交通費が日本に比べてかなり安いので、学校で習った中国語の実践練習もかねて、授業の終わった午後や週末には中心地や上海ディズニーなどの観光地に遊びに出かけていました。



(外灘からみた上海中心)



(上海ディズニーランド)



大きな大学内を歩くのは運動になりますし、急いでいるときは中国のそこら中においてある一回十五円～乗ることができるシェア自転車を使っていました。

寮は、二人部屋でベッドと勉強机とクローゼットがあり、洗面所やトイレ、シャワールームなどは共用でした。留学生寮だったので、玄関ロビーで知り合った大学のことを熟知している本科生の日本人に洗濯機の使い方や出前の取り方や通販の仕方などいろいろなことを教えてもらったり、勉強ルームは毎回ほとんどメンバーが同じだったのでお菓子を分け合ったり、おしゃべりをしたりして交流がたくさんありました。 (部屋の様子→)



授業は週五日、一日二回、一回百八十分だったので、午後は勉強したり街に出て実際に言葉に触れたりして有意義に使うことができました。

私の留学していた上海の人々はとてもやさしくて、中国に行ってから嫌な思いをしたことがないくらい良い人ばかりでした。日本では政治面やマスメディアなどの影響で中国にあまりいいイメージを持たない人が多く見受けられます。私自身も中国に行くまでは良いイメージもなかったし、四カ月有意義に過ごせるかや言葉が通じるかなど不安でいっぱいでした。

しかし、実際に中国で生活してみて中国人に対するイメージが百八十度変わりました。中国での留学生活が始まったころ、ご飯を食べるためにご飯屋さんに行ったり生活用品をそろえるために買い物に行かなければいけなかったりしたのですが、言葉が聞き取れなくても嫌な顔一つせず、私が理解できるまでゆっくり話してくれたり携帯電話で翻訳したりしてなんとか伝えようとしてくれるし、私たちが困っていれば助けを求めなくてもすぐに声をかけてきて助けてくれました。

そのおかげで外出をすることや現地の人と交流をすることが怖くなくなったので、積極的に現地のご飯屋さんに入りご当地料理を食べることや街に出かけるなどいろいろなことに挑戦して中国留学でたくさんの経験をすることができました。



麻辣烫 ma2la4tang4



鸡公煲 jilgong1bao1

(とてもおいしくてよく通っていた学校の近くにあるマールータンとジーゴンバオの写真)

日本では当たり前のことが中国では当たり前でなかったりするので、文化の違いに気づき受け入れて、一部報道や SNS などのマスメディアでの情報で悪いイメージを持ったままでは、実際に足を運んで自分の目で見たり触れ合ったりしてみる事が大切だし、それこそが政治面で解決しない問題があってもお互いの国民の関係円満につながる

と思いました。

11月に学校が主催するフィールドトリップで、中国・寧波へ行きました。クラスメイトたちと仲良くなるチャンスだと思い参加したのですが、私たちのクラスからは二十人弱中、韓国から来たユハちゃん、タイから来たファイター、デンマークから来たマーティン、フランスから来たリサと私のたった五人しか参加しませんでした。

しかし、人数が少なかったからこそとても仲良くなることができました。

旅行中はずっと一緒に行動をしていました。ご飯を食べる時に日本では「いただきます。」と言いますが、中国にはそのような挨拶がないため、各国の「いただきます。」などの言葉を教え合ったり、食事のマナーの違いを教え合ったりしました。



(寧波旅行中の写真、左上からマーティン、リサ、ファイター、ユハお姉さん、私)

他の国の良さや発見を知るとともに、外国人から見た「日本ってこういうイメージだけど本当なの?」「日本はどのようにしているの?」という疑問だったり、「日本のこういうところが良いよね」と褒められたりすることで、日本の良いところや、今まで自分が当たり前だと思って行ってきたことが海外から見ると不思議なことに気づくことができたし、改めてどうしてなのだろうと考えることができ、新しい発見などがたくさんありました。

このフィールドトリップは学校が主催しているもので、語学留学生限定で参加することができます。交通費、宿泊費、観光地のチケットなど込で百五十元(二千四百円程度)だったので、非常にお得で大満足な旅行でした。

海外の人と一緒に生活することや意見交換することは、海外のことを知ることができるだけでなく、日本について客観的に見ることもできるのでとても良いと思いました。

私は今回の留学中に今回の経験を活かして、外資系航空業界への就職という夢ができました。航空業界は日本の最前線で海外のお客様と関わる仕事です。私が上海で関わった人たちのおかげで中国のイメージが変わったように、私も日本人代表としてお客様に関わり、日本人の親切さや礼儀正しさを世界の人々に伝えていきたいという気持ちが大きくなりました。現在は、留学先で勉強してきた範囲の HSK 四級取得のために勉強中で、就職活動前に HSK 五級まで取得できるように頑張ります。